

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-02

学校名・団体名	札幌市書写書道教育研究会
HPアドレス	http://sapporo-syosya.info/
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	「手で文字を書く」文化の継承 ～書写を起点として
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">・文字を手書きする機会が激減している昨今、日本人のアイデンティティを失うことなく「手で文字を書く」文化を、小学校の書写学習を起点として継承していきたい。そこで、研究協力校を中心に、学校研究として書写学習を取り上げ、研究の深化と成果の発信に協力してもらう計画を立てた。本研究会と研究協力校が手を組み、これからの書写学習のあるべき姿を追究していくことを目的とした。	

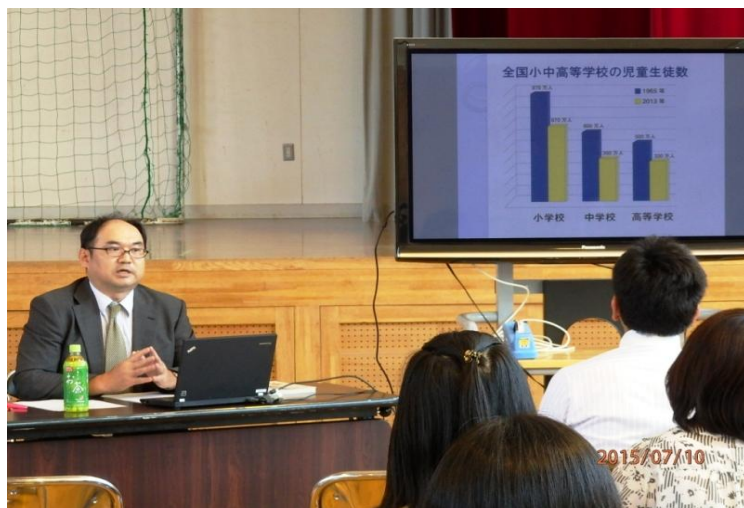
- 「手で文字を書く」機会が激減している社会で、その価値を見直し、手で文字を書く文化を継承していくためには、初等教育段階では何が必要なのか。文字を見つめ、文字を書くための原理や原則をつかんでいく学習には「書写学習」が最も適切であると考え、書写を起点とした学びを研究していくことにした。教職員を対象に年間を通して学習会や授業研究を行ったり、児童を対象にした文字イベントを開催したりして、手で文字を書くことへの価値の高まりを目指した。

【授業を通しての書写学習会・書写教科書フォーラム】

●平成27年7月10日(金)

13:30~授業公開・学習会

- ・本研究会会員で共同研究者である嶺野千映子が、札幌市立真駒内桜山小学校児童と書写の学習をし、公開。桜山小学校は、来年度(平成28年度)の北海道書写書道教育研究会札幌大会の会場校であり、学校をあげて書写学習の研究に取り組んでいることから、その研究の一環として授業を公開した。(公開は桜山小教職員だけでなく、札幌市小・中・高校に呼びかけ、60名ほどが参集した。)
- ・この授業では、「日」を題材に、「おれ」の仕組みや筆使いについて学ぶ学習を展開した。「おれ」が横画と縦画から構成されていることを理解することや、穂先の通り道を意識して書くことを目標として授業を組み立てた。
- ・児童の感想から、「もっと上手になりたい」という意欲を引き出すことができたほか、参会者からは「書写の授業を初めて最初から最後まで見た。」とか、「書写など技能教科でも、課題解決学習ができるんだ、と思い知らされた。」など感想があがった。これは、今回の学習会が意図するところであり、書写を専門に研究していない教職員に、書写学習の効用を開陳できる絶好の機会となった。
- ・この学習会は、地元教育新聞「北海道通信/日刊教育版」に掲載された。=写真左



15:10~教科書フォーラム

- ・今年度から教科書が新しくなり、本市では光村図書の書写教科書を使用している。教科書が新しくなったことで、題材が代わったり、取り上げられている教材数が変わったりした。また、硬筆と毛筆の関連等で特徴的な編集がなされていることもあり、「今度の教科書を、より効果的に使っていこう」との意識から、教科書の編集側をお招きして「教科書フォーラム」を開催した。(参会者48名)=写真右
- ・光村図書より教科書編集部書道課の松井編集長が来校、新版教科書の編集趣意や特徴の説明後、参会者からの質問に回答してもらった。鉛筆の持ち方や漢字指導への応用といった硬筆に関わることをはじめ、ひらがなの題材に関わる疑問や、課題手本と実物半紙の大きさに関係した毛筆に関わる要望など幅広い意見が出された。今後、教科書を使って指導していく身として、実効性のある時間になり、大変良かったと感想があった。

- ・本研究の原点である「手で文字を書く」ことに関連して、書写を書写の時間だけでとらえていくのではなく、国語と大きく関連させて「文字」を扱っていく重要性から、国語の教科書と書写の教科書を合本として作れないかといった、大胆な意見も出され、編集長からも「貴重な意見」として今後の編集に生かしたいとの話があった。

【文字フェスティバル】

●平成 27 年 12 月 1 日(火)

13:30~パフォーマンス開始

- ・日常の書字活動、手で文字を書く活動を魅力的なものと感じ、より正しく整えた文字を書きたいという態度を養うために、書写の学習要素を取り入れたイベントを、真駒内桜山小学校で開催した。(児童参加数 700、教職員 30、保護者の観覧 45 名)
- ・札幌龍谷学園高等学校の書道部 16 人を招き、書道パフォーマンスを披露してもらった。音楽に合わせ、大小多彩な筆を使い、きゃりーぱみゅぱみゅの歌の歌詞を書いた。続いて、児童参加型のパフォーマンスとして実際に大きな筆で大きな文字を書いて、墨をたっぷり含んだ筆の重さを体感しながら揮毫していた。**=写真上**
- ・児童の感想として、「小さい筆と、全然違う。すごく重くて苦労した。」「すぐそばで見られたので、迫力がすごかった。」「わたしも書いてみたい。」など、文字を書くことの楽しさを存分に味わったようだった。一方、今回は観覧に来た保護者(事前に開催告知文を配付)にもアンケートを実施し、このイベントの効果について保護者の立場からの意見を集めた。ほとんどが肯定的な意見であった。「文字を書く楽しさを実感するのに、とても良い試みだった。」「ぜひ続けて開催してほしい。」など、嬉しい反応が多くを占めた。
- ・この日の模様は、「北海道通信/日刊教育版」に 1 面記事紹介とともに掲載され、全道から反響があった。

=写真下

